

実務実習 I (病院)

5年次 前期 必修 10単位

担当者 小嶋 文良・西川 陽介 (所属：臨床薬剤学実習センター)

我妻 恭行・林 貴史・佐藤 祥子・及川 淳子・工藤 香澄 (所属：薬剤学教室)

村井 ユリ子・中村 仁・鈴木 裕之・金野 太亮 (所属：臨床薬剤学教室)

蓬田 伸 (所属：薬物治療学教室)

岡田 浩司・薄井 健介・大内 竜介・渡邊 卓嗣 (所属：病院薬剤学教室)

一般目標 (GIO)

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

到達目標 (SBOs)

(1) 薬学臨床の基礎

中項目 GIO 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

1. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) [F-(1)-②-4]
2. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) [F-(1)-②-5]
3. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) [F-(1)-②-6]
4. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度) [F-(1)-②-7]
5. 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。[F-(1)-③-6]
6. 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。[F-(1)-③-7]
7. 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度) [F-(1)-③-8]
8. 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。[F-(1)-③-9]
9. 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。[F-(1)-③-10]
10. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。[F-(1)-③-11]
11. 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。[F-(1)-③-12]
12. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。[F-(1)-③-13]

(2) 処方せんに基づく調剤

中項目 GIO 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

13. 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能) [F(2)-①-2]
14. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度) [F-(2)-①-3]
15. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能) [F-(2)-②-7]
16. 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能) [F-(2)-②-8]
17. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能) [F-(2)-②-9]
18. 薬歴、診療録、患者の状態から処方箋が妥当であるか判断できる。(知識・技能) [F-(2)-②-10]
19. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) [F-(2)-②-11]
20. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能) [F-(2)-③-9]
21. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能) [F-(2)-③-10]
22. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能) [F-(2)-③-11]
23. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能) [F-(2)-③-12]
24. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能) [F-(2)-③-13]
25. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能) [F-(2)-③-14]
26. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。[F-(2)-③-15]
27. 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能) [F-(2)-③-16]
28. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能) [F-(2)-③-17]
29. 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能) [F-(2)-③-18]
30. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能) [F-(2)-③-19]
31. 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。(態度) [F-(2)-④-9]
32. 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度) [F-(2)-④-10]
33. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度) [F-(2)-④-11]
34. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度) [F-(2)-④-12]
35. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。(知識・態度) [F-(2)-④-13]
36. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度) [F-(2)-④-14]
37. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能) [F-(2)-④-15]
38. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能) [F-(2)-⑤-9]
39. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能) [F-(2)-⑤-10]
40. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。[F-(2)-⑤-11]
41. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能) [F-(2)-⑤-12]

42. 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能) [F-(2)-⑤-13]
43. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度) [F-(2)-⑥-8]
44. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。[F-(2)-⑥-9]
45. 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度) [F-(2)-⑥-10]
46. 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度) [F-(2)-⑥-11]
47. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能) [F-(2)-⑥-12]
48. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度) [F-(2)-⑥-13]
49. 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度) [F-(2)-⑥-14]

(3) 薬物療法の実践

中項目 GIO 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

50. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度) [F-(3)-①-5]
51. 患者・薬局および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [F-(3)-①-6]
52. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度) [F-(3)-①-7]
53. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能) [F-(3)-②-2]
54. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能) [F-(3)-②-3]
55. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度) [F-(3)-②-4]
56. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能) [F-(3)-②-5]
57. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取り扱うことができる。(知識・態度) [F-(3)-③-6]
58. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。[F-(3)-③-7]
59. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。[F-(3)-③-8]
60. 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤の性質等)に基づき、適切な処方提案できる。(知識・態度) [F-(3)-③-9]
61. 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度) [F-(3)-③-10]
62. 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度) [F-(3)-③-11]
63. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度) [F-(3)-③-12]
64. 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。[F-(3)-③-13]
65. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度) [F-(3)-③-14]
66. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・技能) [F-(3)-④-4]
67. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案できる。(知識・態度) [F-(3)-④-5]
68. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能) [F-(3)-④-6]
69. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。[F-(3)-④-7]
70. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。[F-(3)-④-8]
71. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。[F-(3)-④-9]
72. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度) [F-(3)-④-10]
73. 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能) [F-(3)-④-11]
74. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能) [F-(3)-④-12]
75. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能) [F-(3)-④-13]

(4) チーム医療への参画

中項目 GIO 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

76. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度) [F-(4)-①-4]
77. 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度) [F-(4)-①-5]
78. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度) [F-(4)-①-6]
79. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度) [F-(4)-①-7]
80. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度) [F-(4)-①-8]
81. 病院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度) [F-(4)-①-9]
82. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度) [F-(4)-②-3]

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

中項目 GIO 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関与することができる。

83. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。[F-(5)-④-2]
84. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度) [F-(5)-④-3]

授業形態

体験型実務実習

成績評価方法

実習施設の評価（60%）

実習記録の評価（30%）

実務実習成果報告（10%）

いずれもルーブリック評価表に基づいた評価

教科書

使用しない

参考書

『今日の治療薬』等、4年次実務模擬実習テキスト

準備学習（予習）・復習

実習期間中のスケジュールに従って、実習内容を把握し、当日行うべき内容を事前に調べて準備すること（1時間程度）。その日終了した内容を日誌に記載しながら、疑問点や課題等を整理して調べる（1時間程度）。

学生へのフィードバック

振り返りレポートへの教員コメント入力

オフィスアワー

各教員のオフィスアワーを参照してください。

実務経験との関連性

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践とチーム医療・地域保健医療への参画に必要な事項を修得するため臨床現場において、指導薬剤師等からの指導のもと実践的な知識・技能を身につける。

担当者はいずれも薬剤師としての実務経験があり、その経験に基づいてフィードバックを行っている。

実務実習Ⅱ（薬局）

5年次 前期 必修 10単位

担当者 小嶋 文良・西川 陽介（所属：臨床薬剤学実習センター）

我妻 恭行・林 貴史・佐藤 祥子・及川 淳子・工藤 香澄（所属：薬剤学教室）

村井 ユリ子・中村 仁・鈴木 裕之・金野 太亮（所属：臨床薬剤学教室）

蓬田 伸（所属：薬物治療学教室）

岡田 浩司・薄井 健介・大内 竜介・渡邊 卓嗣（所属：病院薬剤学教室）

一般目標（GIO）

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

到達目標（SBOs）

（1）薬学臨床の基礎

中項目 GIO 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

1. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）[F-(1)-②-4]
2. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）[F-(1)-②-5]
3. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）[F-(1)-②-6]
4. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）[F-(1)-②-7]
5. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。[F-(1)-③-11]
6. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。[F-(1)-③-13]
7. 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。[F-(1)-③-14]
8. 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）[F-(1)-③-15]

（2）処方せんに基づく調剤

中項目 GIO 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

9. 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）[F-(2)-①-2]
10. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）[F-(2)-①-3]
11. 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。[F-(2)-①-4]
12. 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）[F-(2)-②-7]
13. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）[F-(2)-②-9]
14. 薬歴、診療録、患者の状態から処方箋が妥当であるか判断できる。（知識・技能）[F-(2)-②-10]
15. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）[F-(2)-②-11]
16. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）[F-(2)-③-9]
17. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）[F-(2)-③-10]
18. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）[F-(2)-③-11]
19. 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）[F-(2)-③-12]
20. 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）[F-(2)-③-13]
21. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。[F-(2)-③-15]
22. 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）[F-(2)-③-18]
23. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）[F-(2)-③-19]
24. 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）[F-(2)-④-9]
25. 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）[F-(2)-④-10]
26. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）[F-(2)-④-11]
27. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）[F-(2)-④-12]
28. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）[F-(2)-④-13]
29. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）[F-(2)-④-14]
30. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）[F-(2)-④-15]
31. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）[F-(2)-⑤-9]
32. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）[F-(2)-⑤-10]
33. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。[F-(2)-⑤-11]
34. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）[[F-(2)-⑤-12]
35. 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）[F-(2)-⑥-8]
36. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。[F-(2)-⑥-9]
37. 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）[F-(2)-⑥-10]
38. 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）[F-(2)-⑥-11]
39. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）[F-(2)-⑥-12]

(3) 薬物療法の実践

中項目 GIO 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

40. 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）[F-(3)-①-6]
41. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）[F-(3)-①-7]
42. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）[F-(3)-②-2]
43. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）[F-(3)-②-3]
44. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）[F-(3)-②-4]
45. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）[F-(3)-②-5]
46. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）[F-(3)-②-6]
47. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。[F-(3)-③-7]
48. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。[F-(3)-③-8]
49. 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方立案を提案できる。（知識・態度）[F-(3)-③-9]
50. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）[F-(3)-③-12]
51. 処方立案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。[F-(3)-③-13]
52. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。[F-(3)-④-8]
53. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。[F-(3)-④-9]
54. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）[F-(3)-④-11]
55. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）[F-(3)-④-12]

(4) チーム医療への参画

中項目 GIO 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

56. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）[F-(4)-②-3]
57. 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）[F-(4)-②-4]

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

中項目 GIO 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

58. 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）[F-(5)-①-4]
59. 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）[F-(5)-①-5]
60. 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）[F-(5)-①-6]
61. 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）[F-(5)-②-3]
62. 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）[F-(5)-②-4]
63. 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）[F-(5)-③-5]
64. 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）[F-(5)-③-6]
65. 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）[F-(5)-③-7]
66. 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）[F-(5)-③-8]
67. 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）[F-(5)-③-9]
68. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。[F-(5)-④-2]
69. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）[F-(5)-④-3]

授業形態

体験型実務実習

成績評価方法

実習施設の評価（60%）
実習記録の評価（30%）
実務実習成果報告（10%）
いずれもルーブリック評価表に基づいた評価

教科書

使用しない

参考書

『今日の治療薬』、4年次の実務模擬実習テキスト等

準備学習（予習）・復習

実習期間中のスケジュールに従って、実習内容を把握し、当日行うべき内容を事前に調べて準備すること（1時間程度）。その日終了した内容を日誌に記載しながら、疑問点や課題等を整理して調べる（1時間程度）。

学生へのフィードバック

振り返りレポートへの教員コメント入力

オフィスアワー

各教員のオフィスアワーを参照してください。

実務経験との関連性

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践とチーム医療・地域保健医療への参画に必要な事項を修得するため臨床現場において、指導薬剤師等からの指導のもと実践的な知識・技能を身につける。

担当教員はいずれも薬剤師としても実務経験を有しており、経験に基づいたフィードバックを行っている。